

福祉委員が福祉コーナーを企画!

城下ふれあいまつりに初参加

城下地区では、小学校と隣接する中学校を会場に、毎年『ふれあいまつり』を開催しています。

11月11日(日)に行われた今年のまつりには、もっと地域に福祉の視点を広げたいと、福祉委員が企画した『福祉コーナー』を設置しました。



視覚障がい体験 「黄色が見えんなあ」白内障を疑似体験する子どもたち



車イス体験 福祉委員が会場内を車イスで移動しながら実演

介護用品の展示や地域の高齢化率などが分かる福祉デーを掲示した他、福祉委員が

(山崎支部 森井裕大)

来場者に、車イスや視覚障がいの体験を説明し実演を行いました。

まつり終了後に福祉委員からは、「自分たちも大変勉強になった」「今度は自治会でも福祉体験をやってみたい」など、今後の活動につながる意見がたくさん出ました。

このように地域のイベントで、福祉委員が地域福祉について考える場を企画したことで、参加者により身近な問題として、福祉に対する関心や理解が広まったことと思います。

貴重な話が聞けて心が軽く…

第2回ふれあい活動連絡会

一宮支部では、11月23日(祝)、一宮保健福祉センターを会場に「第2回ふれあい活動連絡会」を開催し、ふれあいサロン・喫茶の運営ボランティア30名が出席しました。

今回のテーマは、『お茶を飲みながらとことん話し合おう』。意見交換をはじめ、活動紹介や脳トレクイズの

体験など盛りだくさんの内容でした。

活動紹介では、嶋田ふれあい喫茶の取り組みにスポットをあて、喫茶の立ち上げ(平成14年9月)から現在に至るまでを、スライドや映像で振り返りました。

活動紹介に続き、サロンや喫茶を実践する中での悩みごとや問題、それに対して工夫している点などについて話し合い、



「他の地区の様子が分かり本当に良かった」との声が多く聞かれました

運営主体の違いや、ボランティアの高齢化、住民への呼びかけ方法などさまざまな意見が出され、参加者全員で共有しました。「貴重な話が聞けて少し心が軽くなった」「同じ悩みがあることで安心した」「今後の活動に生かせそう」など、前向きな声が聞かれ、今後も連絡会が運営ボランティアにとって有意義な場となるよう進めていきます。(本部・一宮支部 波多野好則)